

令和6年度 学校評価

そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない ■ わからない ■

(1) 主体的に考え行動する力を育む教育の推進		考察
<p>1 豊かな心と健やかな体を育む教育の推進</p> <p>学校は、豊かな心と健やかな体を育む教育の充実に努めていると思いますか。(感動・感謝、郷土愛、いのちを大切にすること、こどもの体力向上、基本的な生活習慣など)</p>	<p>2 自ら学びに向かう力を育む教育の推進</p> <p>学校は、こどもが自分で考え、自分から取り組む授業づくりに取り組んでいると思いますか。</p>	<p>1 「豊かな心と健やかな体を育む教育の推進」 「そう思う」「どちらかといえばそう思う」との肯定的な回答をしている割合は生徒自身や教職員が9割強であるのに対し、保護者の回答は7割弱であった。学校での取り組みの周知等の工夫が必要である。 2 「自ら学びに向かう力を育む教育の推進」 教職員よりも生徒自身の方が「そう思う」の割合が2倍以上で、主体的に取り組むことができていて、と実感しているようである。保護者もそう感じられるような仕掛けが今後必要である。</p>
(1) 主体的に考え行動する力を育む教育の推進		
<p>3 社会の形成や持続的発展に主体的に貢献する力を育む教育の推進</p> <p>学校は、学校生活や地域社会をよりよくするために考えたり、行動したりすることの育成に、取り組んでいると思いますか。(児童会・生徒会活動、学校のきまり見直し、地域のよさを伝えたり課題解決したりする取組、ナイスライ(中学校)など)</p>	<p>3 「社会の形成や持続的発展に主体的に貢献する力を育む教育の推進」 保護者や教職員は「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と肯定的な回答をしている割合が8割強であるのに対し、生徒自身は2割強が「どちらかといえばそう思わない」「思わない」と回答している。本校で行っている校則見直し等の取り組みを通して、生徒自身の成就感を高めたい。</p>	
(2) こども一人一人を尊重した教育の推進		
<p>4 5 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実</p> <p>学校は、こどもが、学習の方法やペースを自分で選んだり決めたりしながら学ぶ授業づくりを行っていると思いますか。</p>	<p>4 5 「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」 個別最適な学びについては、生徒の肯定的な回答が7割超えたのに対し、教職員は「まだ十分でない」との思いをもっている。また、対話的な学びに関しては、9割の生徒や教職員が肯定的な回答をしており、令和の学びが着実に根付いていると考えられる。保護者への理解が十分ではない結果が出ているので、今後子どもの姿から理解してもらえるような工夫が必要である。</p>	
(2) こども一人一人を尊重した教育の推進		
<p>6 特別支援教育をはじめとする多様な教育的ニーズに対応した支援の充実</p> <p>学校には、こどもが助けを必要とするときに、先生や友達から支えてもらえる温かな雰囲気があると思いますか。</p>	<p>7 インクルーシブ教育の推進</p> <p>学校では、こどもがそれぞれの違いを認め、お互いを尊重し合って共に学び合っていると思いますか。</p>	
		<p>6 「特別支援教育をはじめとする多様な教育的ニーズに対応した支援の充実」 生徒、教職員とも9割が肯定的な回答をしているが、2割弱の保護者は、まだ十分ではないのではと考えている。校内での取組等、積極的に啓発していきたい。 7 「インクルーシブ教育の推進」 8割以上の生徒、教職員は互いを認め合うことができているとの感じているが、2割の保護者は十分ではない、もしくはわからないと回答している。こちらも交流及び協働的な学びの取組の周知等していく必要がある。</p>

(3) 最適な教育環境の整備

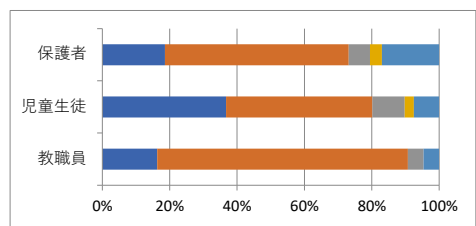
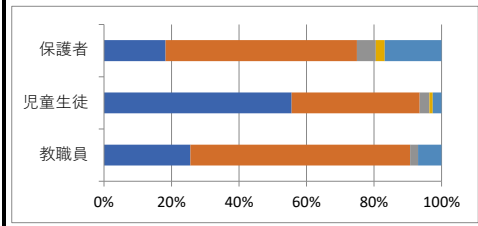
8 安全・安心な園づくりの推進

学校は、こどもの安全を守る環境の整備を進めるとともに、安全教育（生活・交通・防災など）に取り組んでいると思いますか。

9 地域や家庭と連携した教育環境の整備

学校は、地域や家庭の人と協力して、授業や行事などの教育活動を進めていると思いますか。

8 「安全・安心な園づくりの推進」
 9 割強の生徒、教職員は安全教育に取り組んでいると肯定的な回答をしている。今後も月1回の安全点検を含め、定期的な避難訓練を計画することで、生活にも役立つ安全教育の実施を行っていく。
 9 「地域や家庭と連携した教育環境の整備」
 地域や家庭との連携はできている、との肯定的な意見がほとんどである。今後も学級だよりや学校ホームページ、すぐる等を利用して周知や協力依頼等を積極的に行っていくようにしたい。

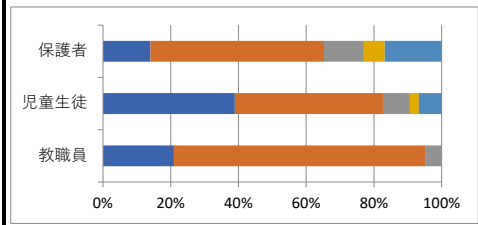


(4) こどものいのちと権利の擁護

10 こどもの最善の利益を守る環境づくり

学校は、こどもの意見を反映させ、こどもの権利を守るとともに、こどもや保護者が相談しやすい学校づくりに取り組んでいると思いますか。

10 「こどもの最善の利益を守る環境づくり」
 「そう思う」「どちらかといえばそう思う」との肯定的な回答が保護者、生徒、教職員でやや差がある。定期的には教育相談やSC等の活用を促す取り組みをしてきたが、より一層の周知の工夫をしていく必要がある。また、校則の見直し等で、生徒たちの意見を反映しながら生徒会を中心に行っているが、保護者へは十分に伝わっていない。さらなる周知の工夫、例えば授業参観等で生徒会から周知する等取り組み方を工夫していく必要がある。



独自項目

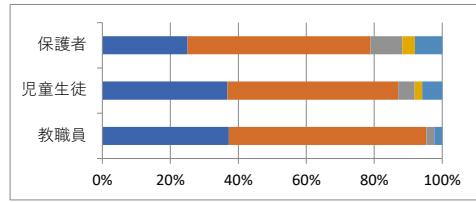
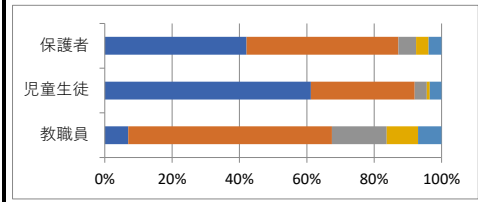
独自項目1

生徒たちは、楽しく学校生活を送ることができていると思いますか。

独自項目2

生徒たちは、「あ・そ・ふ・じ・へ」を守って行動していると思いますか。

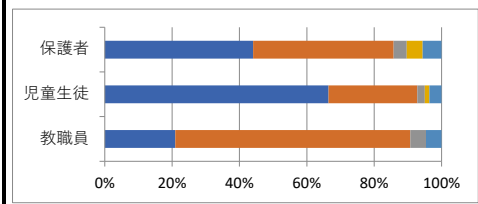
「学校生活は楽しいか」に肯定的に「そう思う」と回答した生徒が92%（前年度より2%↑）いた。「あそふじへ」を意識して行動していると肯定的に回答した生徒は87%であり、ほとんどの生徒が学校生活は楽しいと感じ、自分自身のこともしっかり振り返ることができ、充実した毎日を送っていることがわかる。今後もこの思いを大切にしていきたい。



独自項目3

生徒たちは、部中三大行事（体育大会・白亜祭・強歩会）等をおして、充実感を味わい、助け合い、支え合うことの大切さを感じることができたと思いますか。

生徒の92%、教職員の91%、そして保護者の86%が肯定的に行事を通して達成感を味わい、成長したと実感している。しかし少数ではあるが、三者に「そう思わない」「わからない」等の回答があることから、本校がこれまで大切にしてきた行事の意義を伝え、今の働き方改革も含めた持続可能な取り組みのあり方を検討しながら、充実感や行事を通しての成長を皆が感じられるようにしていく。



来年度の具体的な取組について

- 生徒の自己肯定感をさらに高め、一人ひとりが自信をもって学校生活を送れるよう、これまで通り生徒の思いや考えを十分にくみ取れるよう、日頃の生活ノートのやり取りはもちろん、毎月のきづなアンケートの書き込みを大切にいく。
- 保護者に学校での取組等を今以上に伝えられるよう、学校HP等で発信を行っていく。
- 学校行事等で保護者へ協力依頼をするときに、PTAと連携しながら持続可能な取組ができるような方法を模索していく。

小中学校関係者評価

- アフターコロナの影響や校舎改築工事の影響を全く感じられず、生徒たちは落ち着いて学習に取り組んでいる、と感じた。授業の様子から、生徒と教職員の信頼関係ができている、とてもいい雰囲気である、と感じた。
- 学校評価の結果を見て、生徒たちが楽しんで学校生活を送っていることが分かった。
- 今後もSNSを受け止める取り組みを継続していただきたい。
- 行事で生徒たちが頑張るためには、先生方の準備がたくさんあるのだろうと感じる。先生方の働き方改革も進められるようにしていただきたい。
- 校舎改築における正面校舎の色について、これまでの帯中らしさは、継承していただきたい。